



“再利用できる資源はリサイクルをする”という選択をすることで、心も生活も豊かなものになることを知っている人たちのために、わたしたちは存在します。

【コラム】企業価値を社会価値へ高める時代へ

段ボールの原料となる古紙の国内価格が一段と下がっています。その要因としては、環境規制を強める中国への輸出減少による国内在庫の増加、消費税増税等を背景にした加工品の段ボールの需要不振、さらには新型コロナウイルスの影響で日本産古紙の購入の減少があります。プラスチックごみも中国の輸入規制を受け、国内でリサイクルするキャパシティ以上のごみが増え続けている状況です。廃プラスチックの最終処分先では、新規の受入れを断ったり、受入量を制限しているところも増えています。当社にも、「他社から回収料の値上げの要求があった。」「廃プラスチックの処分をお願いしたい。」という問い合わせが増えています。レジ袋の有料化やプラスチックストロー廃止などの取組みが進む中で、古紙やプラスチックのリサイクルシステムの維持が難しくなっている現状があります。

国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）やCSV、ESGなどが注目を集めています。かつて企業は、寄付や社会貢献を通じて自社のイメージを向上しようとしていましたが、今は資本主義の原理に基づいてビジネスとして社会問題を解決する、という攻めのイメージを打ち出す企業が増えています。「過剰」と「所有」が進む資本主義において、企業価値と社会価値という、一見矛盾しているように思える二項対立の価値観も、社会や常識を残り超える全く新しい考え方と論理があれば、ガラッと世界を変えることもできるはずですよ。

企業は、売上からコストを差し引いた利益を社会に還元する役割があります。多くの企業はコストと言えば、原材料費、人件費、広告宣伝費といった目に見えるものだけを考えます。しかし、企業活動を大きな視点でとらえれば、公害や環境破壊などの損失を社会全体が負担しています。その社会的コストを税金だけで負担するには限界があります。

モノを「増やす」という発想を変え、「廃棄物」や「捨てる」という考え方を見直し、新しい仕組みづくりを始める - これはどの企業にも待ったなしの課題です。消費者も企業の理念や経営者の信念を言語化・価値化したものを選ぶ時代に入っているのです。



ワークショップを開催、詳細はHPへ

ご報告

日本ユニセフ協会への寄付

5年前から古紙を持ち込むたびに10円をユニセフへ寄付し、世界の子ども達のために役立てる活動を始めています。1月7日に日本ユニセフ協会に92,150円を寄付させて頂きました。たくさんの方にお越し頂きまして、誠にありがとうございました。



～考えるための言葉～

「己の欲せざる所は、人に施すなかれ。」 - 論語より -

当社への持ち込み1件あたり10円を寄付

ユニセフへの
累計寄付金額 **271,050円** ※

※2/28現在

みなさまの声をお聞かせ下さい

資源物リサイクルを通して、環境保全に貢献することを目指す当社では、サービス向上のためにも皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしています。

発行元： 奥富興産株式会社
編集責任者： 奥富 宏幸
〒350-1322 埼玉県狭山市下広瀬782-2
TEL: 04-2952-3332 FAX: 04-2952-3070
URL: <http://www.okutomi.co.jp>

編集後記

今年はいよいよ東京五輪が開催されますが、新型コロナウイルスの影響が心配されます。東日本大震災から9年が経過しましたが、かつて当たり前にあった人々の交流は途絶えてしまいました。お金や資源が一部の人間に偏っている社会では、世代を超えて伝えていくことの意義が薄れているように感じます。その先に何かあるのでしょうか？